

第 2 回「宇都宮市交通安全審議会」意見概要について

1 第 2 回交通安全審議会意見概要

【現状等に関する意見】

- ・トラック協会から寄付された自転車ヘルメットが配布されているが、使っている人をなかなか見かけない。私たちが広報活動をするときも高齢者に反射材などの啓発物品を配布しているが、家にしまわれがちで、使われていないことが残念である。
⇒トラック協会から県を通して配布された自転車用ヘルメットの配布については、よりヘルメット着用の促進を図るため、配布者を「自転車ヘルメット利用推進員」に任命し、自らモデルとなって、その有用性を広く市民に周知するとともに、交通ルールの遵守に努め市民の模範となってもらおう取組を実施している。
- ・自分の住んでいる地区は学校が多いが、通行する高校生のマナーが悪く、残念に思っている。ただ、登下校時に地域の方や学校の生活指導の先生などが立っている場所では、高校生もきちんと一列になって走行する様子が見られる。大人が温かい目で見守れば、高校生もルールを守れるのだと思う。

【施策等に関する意見】

- ・子どもは日々の生活の中で親を通して交通ルールを学んでいくので、親が正しい交通ルールを認識し、子どもに伝えていくことが重要だと思う。そのためにも、あらゆる世代に満遍なく、交通ルールについて考える機会を与えていただけるとよい。
- ・一人ひとりが交通ルールを守ることはもちろん、人間同士の絆を深めることで、自分の子どもだけでなく、地域ぐるみで子どもを見守り、子どもの命を守るような社会になるとよいと思う。
- ・地域の協力により、普段とは違った視点で交通安全の指導をいただくと、生徒も新たな発見があり、感じる人が多いようである。学校と地域が連携するような土壌づくりができると、教育の現場としてもありがたい。
- ・高齢人口は年々増えていくので、高齢者の安全確保が重要になってくると思う。
- ・これからの宇都宮、日本を支える子どもたちを、学校と地域が連携して見守り、指導していくことが重要である。
- ・自転車専用通行帯のルール等については、毎月発行される市の広報紙の表紙等に掲載してもらえると、家庭で話し合いを持つことができ、ルールの自覚に繋がるのではないかなと思う。
- ・保育園や幼稚園の前など、子どもの施設があると明確に分かるような標示や保育園等の前の道路をカラー化するなど、運転者の注意を喚起するための施策があればよいと思う。

- ・ 耳の遠い高齢者については、補聴器の着用を義務付けることも交通事故防止に繋がるのではないかと思う。
- ・ 高齢者、子ども、自転車が重点施策になると感じた。このような対象へ、どのような交通安全教育を行っていくかが非常に重要である。
- ・ 子どもや高校生の次の世代として、子育て世代に向けた対策も今後必要になるのではないかと思う。
- ・ 地域の方々がどう考えているのかということをしっかり吸い上げる仕組みが必要だと感じた。
- ・ 第10次計画では、平成31年度に開業を目指しているLRTのことも入れていけば、左都宮らしさが出せるのではないか。また、具体的な施策を検討するとき、公共交通との連携についても出していけたらよいと思う。

【問題意識・分析等に関する意見】

- ・ 先進事例として、条例を制定して任意保険を義務化している県もある。条例が必要かどうかは今後検討していくことだが、適切に効果を生める仕組みを考えていく必要があると思う。県や警察とも連携をとって、様々な角度から効果的な施策事業について検討していただきたい。
- ・ 自転車専用通行帯や道路に駐車車両があるとき、自転車がよけて走ることが危険だと感じている。子どもの塾の送迎などで、短時間だし邪魔にならないと思込み、駐車場ではなく道路に車を停めてしまう人がいると、他の人や自転車の安全が確保されないと思う。外国では、車が停まる部分と自転車の通る部分がきちんと考えられているので、日本でももっと整備を進めていく必要がある。
 - ⇒ 路肩などに設置してある走行に支障をきたす段差解消ブロック等の撤去指導についても取り組んでいくとともに、警察や道路管理者とも連携を図りながら、安全な自転車走行空間を確保できるよう対応していく。
- ・ バイクが車の脇を通るとき、自転車専用通行帯を走行することが非常に危険だと思う。自転車専用通行帯をバイクが走行できないよう、交通規制など何か対策がとればよい。
- ・ 左側からの車の追い越しが道路交通法違反であることも、バイクの運転者は知らないように感じる。基本的な交通ルールの周知啓発を続けていくことが必要かもしれない。
- ・ 割合的に高校生の自転車事故当事者数が突出して多いとのことだが、学校側としても生徒達に根気強く交通安全について伝えていかななくてはいけないと、改めて感じた
- ・ 自転車に乗っているとき音が聞こえないと、後方から来る自転車や車に気付かないなど、危険な目に遭うかもしれない。また、イヤホンを付けながらの運転などは、外の音が聞こえにくくなるので、聴覚障がい者の状態に近いと言えるかもしれない。そのような意味では、若い人も同じ問題があると思う。

- 自転車専用通行帯では、双方向の通行が可能と勘違いしている人もいて、徹底されていないように思う。交通安全教室に来るような人はきちんと守っているが、教室に参加しない人が問題だと感じている。
- 「自転車はどこを走ってもよい」という、自転車利用者の意識を少しずつ変えていくことが必要である。しかしながら、歩道では自転車の双方向の通行が可能であるなど、今の日本の自転車ルールには曖昧な部分があることも事実なので、少しずつ整備していかねばならないと思う。
- 日本では、スクールゾーンと言っても現在は標示があるだけで、車が必ず減速しているという訳ではない。今後やるべきことはまだまだたくさんあると感じている。